

| | | | | | |
|----------|---|----|------|----|-----|
| 氏名 | 浅井 宏美 | 部署 | 看護学科 | 職名 | 准教授 |
| 研究分野 | 母性看護学、助産学、周産期医療・看護 | | | | |
| 学位 | 博士（看護学） | | | | |
| 学歴 | 2001年茨城県立大学保健医療学部看護学科卒業、2008年聖路加看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了、2015年聖路加国際大学（旧聖路加看護大学）大学院看護学研究科博士後期課程修了 | | | | |
| 経歴 | 2008年首都大学大学健康福祉学部助教、2010年聖路加看護大学看護学部助教、2015年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年～同大学准教授 | | | | |
| 所属学会（役職） | 日本母性看護学会（査読委員）、日本助産学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本小児看護学会、日本生殖看護学会、日本新生児学会 | | | | |

【2020年度実績】

| | | | | | | |
|--------------|--|-------|------|--|--|---------------|
| 1. 研究業績 | | | | | | |
| (1) 著作 | | | | | | |
| | 著作の名称 | 単・共 | ISBN | 発行所、全ページ数 | 著者、編者名 | 発行等年月 |
| 1 | 助産師基礎教育テキスト2021年版第6巻産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 第4章 新生児のニーズとケア | 共著 | あり | 日本看護協会出版会；P.185-204 | 編集責任 江藤宏美、著者岡永真由美、常盤洋子、井村真澄、浅井宏美、他7名 | 2021.2 |
| (2) 論文 | | | | | | |
| | 論文の名称 | 単・共 | 査読 | IF対象誌 | 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ | 著者、編者名 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| (3) 学会発表 | | | | | | |
| | 学会発表の演題 | 単・共 | | 学会名、開催都市 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | テーマセッション「患者・家族の意見を尊重した意思決定支援：ロールプレイを通して考える」 | 共同 | | 日本小児看護学会第30回学術集会、オンライン開催 | 井上みゆき、権守礼美、浅井宏美、齋藤かおり、杉野由佳、竹島雅子、川名佑季（テーマセッションの司会・進行担当） | 2020.9 |
| 2 | 助産学生対象の新生児ケアの演習におけるCOVID-19感染対策および教育上の工夫 | 共同 | | 日本助産学会第35回学術集会、オンライン開催 | ○浅井宏美、山本英子、東原亜希子、森田亜希子、兼宗美幸、青木恭子、千葉真希子、齋藤未希、齋藤恵子、鈴木幸子 | 2021.3 |
| (4) その他 | | | | | | |
| | 名称 | 単・共 | | 発表場所等 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | | 研究名 | 研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 |
| 1 | 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究B） | | | e-learningおよびピアサポートを活用した周産期看護職の教育プログラムの開発 | 研究代表者 | 2016.4～2022.3 |
| 3. 教育業績 | | | | | | |
| (1) 講義 | | | | | | |
| | 講義の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） | | |
| 1 | ハイリスク周産期 | ○ | 6 | 4年次助産系履修学生を対象に、ハイリスク新生児への看護について講義し、事例や病棟内でのケアの画像、DVD教材として活用し、実際の看護について理解が深められるよう工夫した。また、臨床で活躍する産婦人科医・新生児科医・看護職を非常勤講師・ゲストスピーカーとして招き、より実践的な内容となるよう工夫した。 | | |
| 2 | 周産期のケア | | 2 | 3年次助産系履修学生を対象に、講義では①胎児・新生児のヘルスアセスメントとケア、②育児支援・地域の助産師活動について担当し、画像・DVD教材や画像を活用し、理解が深められるよう工夫した。 | | |
| 3 | 母性看護学Ⅱ（方法論） | | 5 | 2年次生を対象に、①新生児と家族のアセスメント（4コマ）、②生殖医療と看護（1コマ）を担当した。①では、基本的な観察方法アセスメント、看護技術について講義し、新生児の実際の映像を活用し、理解が深まるよう工夫した。②では、生殖医療の基礎知識だけでなく、不妊治療・高度生殖医療を受ける対象の理解、ケアの視点やNPO支援団体などについても紹介し、幅広い知識と深く理解できるような工夫をした。 | | |

| (2) 演習 | | | | | | |
|----------|---------------|----------------|---------------------------------------|---|-------------|---|
| | 演習の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要(教育内容・方法等において工夫した点) | | |
| 1 | 分娩期のケア | | 35 | 4年助産系学生を対象に出生直後の新生児のケア演習の担当、内診技術演習、分娩期の看護の演習、助産過程の演習を担当。当日の演習前に電子教材での事前課題を課すなど遠隔と対面での学習を組み合わせる学習効果を上げる工夫した。分娩介助実習の前に知識・技術が定着するよう、時間割のコマ以外にも学生の介助技術練習への個別の指導なども実施した。 | | |
| 2 | 周産期のケア | | 18 | 3年次助産系履修学生を対象に、模擬集団教育(両親学級)のための教育指導案や教育媒体(パンフレットやpptスライド)作成の指導を行い、グループ毎の発表会を通して、お互いの成果物に関する情報共有、評価を行い、実践的な学びにつなげることができた。 | | |
| 3 | 母性看護学Ⅱ(方法論) | | 9 | 感染状況から例年通りの学内技術演習が実施できなかったため、2年次を対象に、小グループに分かれて遠隔で自宅にあるタオル等を活用し、新生児のモデル人形と仮定して、進行性への変化の観察とアセスメント、授乳支援についてのロールプレイ(褥婦・看護者役)を通して基本的看護技術についての演習(3コマ)を行った。また、看護過程のグループ演習(4コマ)も遠隔で行い、グループ担当教員として効果的な議論ができるようファシリテート・支援した。 | | |
| 4 | 遺伝と看護 | | 7 | 4年次生を対象に先天異常の可能性のある胎児を持つ周産期の女性と家族の事例を題材に、PBLテュートリアルでの討議を通して、医学的、社会的・倫理的問題について理解する科目である。PBLを通して卒後に看護職者として働く上で必要な倫理的感受性・態度が身につくよう、学生の主体性を尊重しつつ、効果的なグループダイナミクスが働くような工夫とファシリテートを行い、学生を支援した。 | | |
| (3) 実習 | | | | | | |
| | 実習の名称 | 科目責任者 | 学外実習:期間 学内実習:コマ数 | 概要(教育内容・方法等において工夫した点) | | |
| 1 | 母性看護学実習 | | 学内実習:2020/5/11~7/3(8週間のうち2クール、10日間担当) | 3年次生を対象に、例年通りの臨地実習(産科病棟での母子受け持ち実習)ができなかったため、臨地で受け持っている想定して、遠隔において紙上事例3種類を用いて各自での看護過程の展開、出産体験者へのインタビュー課題を課した。達成度は個人差が大きく、臨地で得られる目標達成はできなかったものの、遠隔での実習記録指導やグループカンファレンス・紙上での看護展開を通してアセスメント能力は概ね身につけることができた。 | | |
| 2 | 総合実習(母性看護学領域) | | 学内実習:2020/7/10~7/31(14日間) | 4年次生を対象に産婦人科病棟において1週間の事前事後学習、3週間の臨地実習指導を行い、4年次の実習目標を達成し、期待した学習効果を上げることができた。 | | |
| 3 | 助産学実習Ⅱ | | 学外実習: 2020/8/17~10/2(6週間) | Covid-19下において、看護学科で唯一、臨地実習ができた科目であり、4年次助産系履修学生2名を実習施設担当教員として担当した。補習期間なしの6週間で、例年よりも分娩介助例数は少なかったものの、それまでの学内代替演習等の教育効果や臨床指導者の効果的な指導により、産婦に対する分娩進行状況のアセスメントとケア、分娩介助技術について、臨床側からの評価も高く、期待していた実習目標を達成することができた。 | | |
| 4 | IPW実習 | | 学内実習: オリ2コマ+実習4日間 | 例年通りの臨地実習ができなかったため、児童発達支援サービスを利用する小児の架空事例を活用し、他大学含む学部学生6名の担当教員として遠隔実習指導を行った。グループワークでは、主体性を尊重し、学生の能力を引き出し議論が活発になるようなファシリテートを行い、チーム形成を促し、最終成果物の発表へとつなげることができた。 | | |
| (4) 論文指導 | | | | | | |
| | 対象 | 期間 | 主指導・副指導の別及び指導人数 | | | |
| 1 | 卒業論文 | 2020.4~2020.12 | 主指導 | 2名 | 副指導 | 名 |
| 2 | 修士論文 | | 主指導(指導教員) | 名 | 副指導(指導補助教員) | 名 |
| 3 | 博士論文 | | 主指導(指導教員) | 名 | 副指導(指導補助教員) | 名 |

| (5) その他 | | | |
|---------------------------|-----------------------------|---------------------------------|--|
| | 名称 | 期間 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
| 1 | 3・4年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援 | 2020.4～2021.3 | 助産系関連科目の担当教員として、3・4年生の助産系履修者の学修支援・就職活動を支援した。 |
| 4. 社会貢献活動 | | | |
| (1) 講演会、研究会、公開講座等の講師 | | | |
| | 講演会、研究会、公開講座等の名称 | 主催 | 講演、研修、公開講座等のテーマ |
| 1 | 該当なし | | |
| (2) 国、自治体、学術団体等における委員等 | | | |
| | 国、自治体、学術団体等の名称 | 委員等の名称 | 任期 |
| 1 | 一般社団法人 日本母性看護学会 | 「日本母性看護学会誌」専任査読委員 | 2019.4～2022.3 |
| 2 | 一般社団法人 日本生殖看護学会 | 「日本生殖看護学会誌」専任査読委員 | 2015.4～現在 |
| 3 | 茨城キリスト教大学 | 茨城キリスト教大学紀要論文の査読委員 | 2019.4～2021.3 |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | |
| | メディア等の名称 | 内容 | 年月 |
| 1 | 該当なし | | |
| (4) その他 | | | |
| | 項目 | 相手方等 | 内容 |
| 1 | 該当なし | | |
| 5. 学内運営 | | | |
| | 項目 | 内容 | 期間 |
| 1 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 情報図書委員会の委員 | 2020.4～2022.3 |
| 2 | 学科等における委員会等 | 看護学科内の財務および総務担当業務を担う総務委員 | 2020.4～2022.3 |
| 3 | 学科等における委員会等 | 看護学科の将来構想検討プロジェクトメンバー（学科長による指名） | 2020.9～2021.3 |
| 6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの） | | | |
| | 受賞名 | 主催 | 受賞年月 |
| 1 | 該当なし | | |
| 7. 特許の取得 | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | 登録年月 |
| 1 | 該当なし | | |
| 8. 特記事項 | | | |
| | | | |